

安曇野地球温暖化協議会に聞く!

学校や企業などで環境問題に関する講演の講師を務めるなど、地球温暖化防止に関する啓発を行っている安曇野地球温暖化協議会の皆さんに現状と課題をお聞きしました。

現在の松本は100年前の飯田より気温が高い

県内を襲った台風19号の気象災害や夏日の増加など、身近なところでも異常気象を伴う地球温暖化が加速しています。現在の松本市の年平均気温は、100年前の飯田市より高い状態です。世界的には2019年COP25以降、各国から2050年にCO2排出量を実質ゼロにすること(ゼロカーボン)が宣言されています。温暖化は単に気温の上昇だけでなく、社会・経済にさまざまな面で影響を及ぼします。アップル社が2030年には

実質ゼロカーボンを達成する計画で、取引先にも同じ対応を求めています。同様の動きが国内でも加速すると考えられます。また、長野県が積極的に取り組んでいる「エシカル消費」が大切になってくると思います。
※エシカル消費=人や社会、地域、環境に配慮した思いやりのある消費をすること。



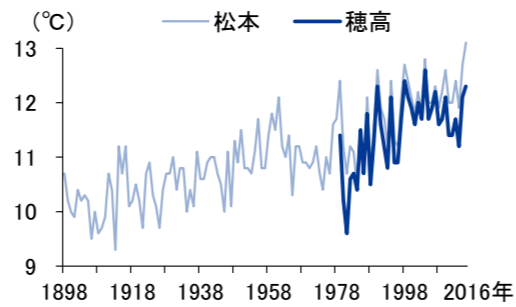
安曇野地球温暖化協議会 **樋口嘉一さん**

「想定外」の災害だといえるか

地球温暖化の現況は、1990年にある程度予想されていました。しかしながら、社会全体がそのことを直視しない雰囲気があったと思います。長野県は最悪の場合、2100年の平均気温が5℃上がる予想がありますが、あくまで平均であって予想には幅があります。場所によっては5℃以上上がる可能性もあります。長野県の場合は1日当たりの雨量が300mmを超える集中豪雨が懸念されます。これからは温暖化の進行を緩和する対策とともに、今後避けることのできない影響への適応策の対応をさらに進める必要があると考えます。



安曇野地球温暖化協議会 **本木修一さん**



松本・穂高における年平均気温の推移【資料:気象庁】

二酸化炭素が増えている最も大きな原因は石油など化石燃料の使用です。県では2050年には省エネの取り組みによって最終エネルギー消費量を7割減らし、太陽光などの再生可能エネルギー生産量を3倍に増やす(※)ことに取り組み、化石燃料を使わない暮らしを目指しています。
※2016年との比較。

学校でできるゼロカーボンチャレンジ!

明南小学校5年1組は昨年11月20日、気候変動を学び、自らどんな行動が必要か学ぶため、「2050ゼロカーボンチャレンジ」の特別授業を受けました。県地球温暖化防止活動推進員を講師に、8班に分かれて、学校でできる取り組みを探りました。「掃除に使った水を植物にあげる」「給食のヨーグルトの入れ物を絵の具水入れに使う」など具体的な提案を発表。温暖化について自分たちができることを考えました。明南小学校の授業の様子は、信州環境カレッジのウェブサイトで「信州ゼロカーボンWEB講座」の動画が視聴できます。



昔は当たり前だった田んぼの天然スケートリンクや6月の田植えが見られなくなったり、夏の猛暑日が続いたりするなど、安曇野でも現在と過去の気温差を実感する人は多いのではないだろうか。実際に、松本気象観測所と穂高気象観測所の観測データでは、年平均気温はいずれも緩やかに上昇しており、松本は1900年代前半(1901~1925)と比べて、2001年以降の平均気温は約2℃上昇しています。最も温室効果ガスの排出量が多いシナリオでは、2100年の長野県の年平均気温は、5℃上がる予測されています。現在の穂高

の年平均気温は11.5℃(平年値)ですが、5℃上がれば、現在の佐賀県佐賀市や宮崎県都城市と同じくらいの気温(16.5℃)になります。
2050年までに実質ゼロに
地球温暖化は、二酸化炭素などの温室効果ガスが増え続けていることが大きな原因です。日本は昨年、菅首相が所信表明演説で2050年度までに国内の温室効果ガス排出を実質ゼロにする宣言。長野県においても昨年、都道府県としては初めて2050年度までに二酸化炭素排出ゼロを目標とする条例を施行しました。安曇野市の温室効果ガス排出量は年々減少傾向にありますが、2017年度の排出量は、77.8万ト(二酸化炭素換算・環境省推計)で、2050年までに実質ゼロを実現するためには、さらなる取り組みの強化が必要になります。

安曇野でも温暖化は進んでいるの?!

地球の平均気温が約130年で0.85℃上がり、異常気象など深刻な影響が出ています。安曇野も例外ではありません。
安曇野の気温が九州と同じに?

地球温暖化は、二酸化炭素などの温室効果ガスが増え続けていることが大きな原因です。日本は昨年、菅首相が所信表明演説で2050年度までに国内の温室効果ガス排出を実質ゼロにする宣言。長野県においても昨年、都道府県としては初めて2050年度までに二酸化炭素排出ゼロを目標とする条例を施行しました。安曇野市の温室効果ガス排出量は年々減少傾向にありますが、2017年度の排出量は、77.8万ト(二酸化炭素換算・環境省推計)で、2050年までに実質ゼロを実現するためには、さらなる取り組みの強化が必要になります。



今すぐにでも、少しずつでも、取り組みが必要。
小笠原和哉くん

ごみ減量もCO2減量につながります。
請地秀亮くん

色々な会社でCO2を減らす宣伝をしてほしい。
木村遙太くん

※写真撮影時はマスクを外してもらいました。